

刺網で捕獲されたオオクチバスの胃内容物

山本充孝・田口貴史（水産課）

1. 目的

刺網で捕獲されたオオクチバス（以下、バス）の摂餌状況を把握することを目的に行った。

2. 方法

2021～2023年に刺網（一枚網）で捕獲したバスは体長・体重を測定した後、解剖して胃内容物を調査した。捕獲されたバスの体長の結果から、目合い55～70mmの刺網で捕獲されたものの未成魚、80～180mmの捕獲魚を成魚としてバスの胃内容物に関する解析を行った。なお、調査は彦根沖、高島沖や竹生島・多景島の島周り等の琵琶湖北湖で行った。

3. 結果

空胃個体の割合は、55～70mmの刺網で漁獲された未成魚も80～180mmで漁獲された成魚も通年では概ね50%であったが、成魚と未成魚で空胃率が異なる時期があり、5～8月には成魚で空胃率が高く、12月は未成魚で空胃率が高かった。また、3月は成魚で空胃率が著しく低かった（図1）。

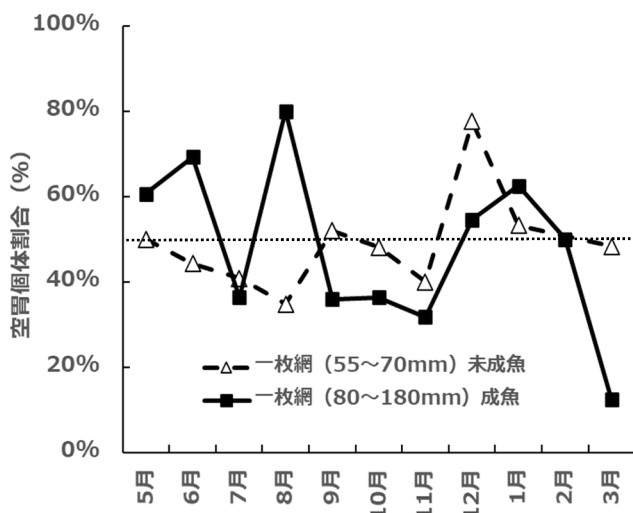


図1 オオクチバスの空胃個体割合の季節変動

月別の調査個体数を表に示した。今回の調査では55～70mmの刺網で漁獲された体表約20cm以下の未成魚だけでなく、80～180mmで捕獲された体長約30～50cm程度の成魚も調査できた。

バスの胃内容物における個体数割合を図2に、重量割合を図3に示した。個体数割合ではスジエビが約69%と圧倒的多数を占め、判別不能魚、アユ、イサザ、ホンモロコが続いた。一方、重量割合では判別不能魚が27%、アユが23%、スジエビが20%であり、ワカサギ、ホンモロコ、ハス、イサザと水産対象種が上位を占めた。

次に、刺網の目合いの大小（55～70mmの未成魚または80～180mmの成魚）および季節（春夏：5～9月または秋冬：10～3月）で区別した胃内容物の重量割合を図4に示した。未成魚では春夏はアユ・スジエビが多く、秋冬は判別不能魚の割合が高く、アユに変わってワカサギ、イサザが多かった。成魚では春夏はアユ・ハス・ホンモロコが多く、未成魚に比べるとスジエビの割合が低かった。秋冬は未成魚と同様に判別不能魚の割合が高く、モツゴ、ワカサギが多かった。

今回の解析は刺網で捕獲されたバスの食性であり、琵琶湖北湖の全体としての傾向は異なる可能性があるものの、これまでほとんど食害される種として注目されていなかったアユの被食が特に春夏に顕著であることが明らかになった。

*本研究は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚等抑制管理技術開発事業」の一部として実施した。

表 オオクチバスの胃内容物調査個体数

刺網の目合い	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
55～70mm	16	167	49	23	127	27	20	49	47	0	29	554
80～180mm	33	39	22	5	39	11	22	22	8	4	8	213
計	49	206	71	28	166	38	42	71	55	4	37	767

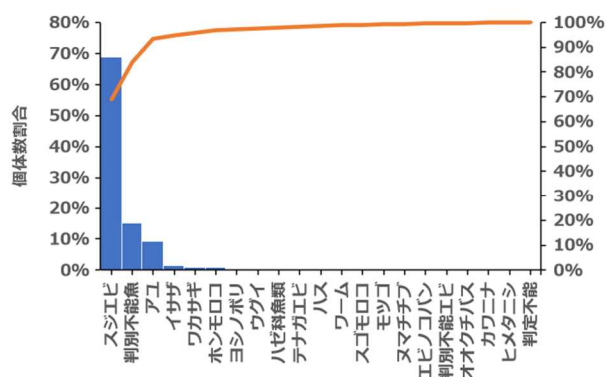


図2 オオクチバスの胃内容物における
個体数割合

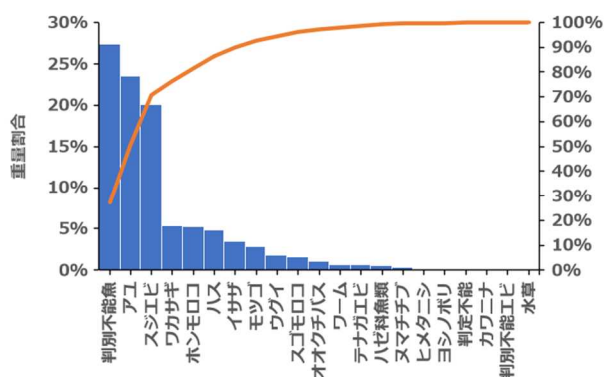


図3 オオクチバスの胃内容物における
重量割合

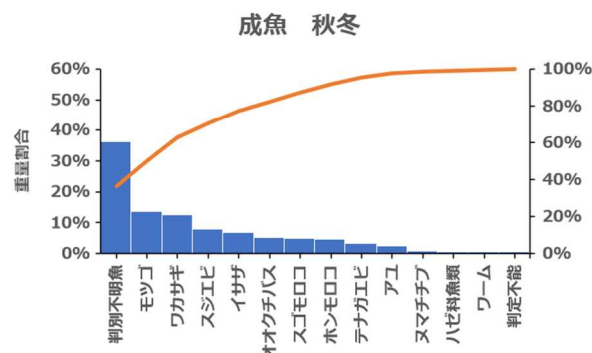
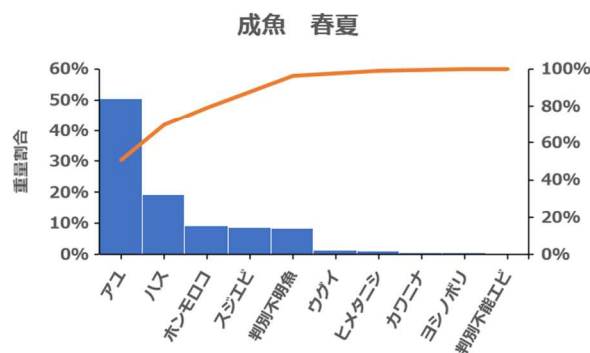
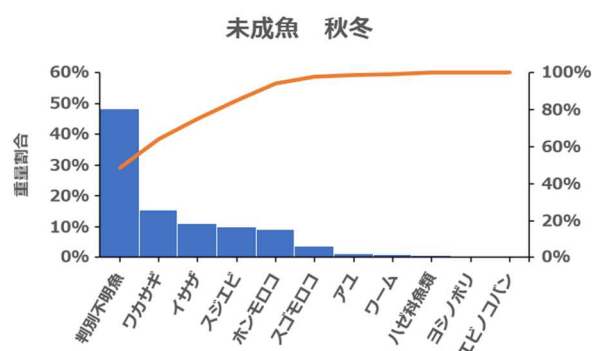
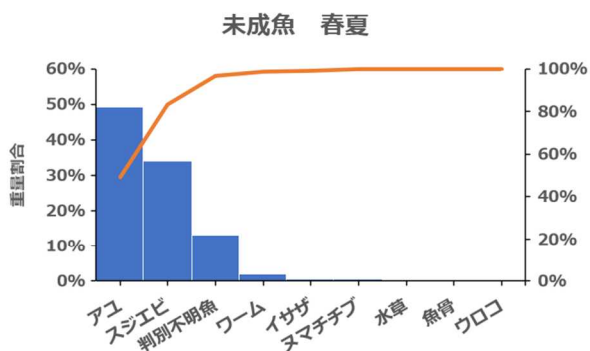


図4 オオクチバスのサイズ・季節別の胃内容物の重量割合

*本研究は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚等抑制管理技術開発事業」の一部として実施した。